研究テーマ	療養病棟における家族支援 看護職員の意識向上のために家族アセスメントシートを用いて
施　設　名	医療法人常磐会　いわき湯本病院
演　者	○渡邊静（看護師）　崎村由子（看護師） 丹野郁子（看護師）　五十公野和子（看護師）

概　　要

【研究背景】

入院が長期にわたる療養病棟の患者の家族は、負担が大きく、家族への支援は重要である。家族支援に関する研究では、ICU において家族アセスメントツール Coping & Needs Scale for Family Assessment in Critical and Emergency care settings を用いた研究がある。この先行研究ではツールを使用したカンファレンスが看護師の家族支援の意識に良好な変化をもたらしていた。CNS－FACE は重症、救急患者家族が対象であり、療養病棟で家族アセスメントツールを用いた研究はなかった。

【研究目的】

療養病棟において看護職員が、渡辺式家族アセスメント／支援モデルによる困った場面課題解決シート（以降シートとする）を使用することにより家族支援について意識に変化がみられるか明らかにする。

【研究方法】

１．期間　平成 26 年 5 月～平成 26 年 11 月

２．対象　A病院　療養病棟　看護職員

３．調査手順

①カンファレンス実施前、実施後に同じアンケート調査を実施した。
家族支援についての意識に関する 33 項目
自記式質問紙（5 段階評価）を用いた。
アンケート項目は先行研究を参考に作成した。

②シートを使って家族支援のカンファレンスを実施した。
シートは家族の情報を整理して支援できるよう開発された。構成は対象者と援助者のアセスメント、援助の方策である。

４．分析方法

シート使用前後のデータをウィルコクソン検定で統計処理を行った。

５．倫理的配慮

看護職員に、文書、口頭で倫理的配慮の説明をし、同意書への署名にて同意の確認を行った。
A病院倫理委員会で承認を得た。

【結果】

シート使用前後のデータ間に有意差がみられ、意識が向上したのは、家族支援について活発なカンファレンスが行われている、家族に安心感を得ていただいていると思う、家族に必要な支援ができている、家族との関わりが良好であり達成感がある、の４項目であった。

【考察】

看護職員は、シートを使用し、相手の立場になって考えることで、家族への共感を得た。援助方策には、援助者自らが変化する方策が示されているため、家族との関わりに変化をもたらしたと考える。

療養病棟において、シートの使用は先行研究と同様に看護職員の意識に良好な変化をもたらした。今後は、シートを使用したカンファレンスを重ね、エビデンスを蓄積し家族看護を充実させる必要があると考える。

【結論】

家族支援に関する意識４項目についてシート使用前後のデータ間に統計学的な有意差が認められ、意識が向上した。

シートを用いたカンファレンスは、看護職員の意識に良好な変化をもたらした。

【引用参考文献】

１）松本　由夏　他　危機状態にある患者の家族看護カンファレンスに CNS－FACE を導入した効果

２）柳原　清子　他　渡辺式家族アセスメント／支援モデルによる困った場面課題解決シート　医学書院